

# 今、コロナ禍を抜けて走り出す

令和5年4月

校長 丸山 一裕

山形市立第八小学校のホームページにアクセスしていただき、ありがとうございます。

本校は馬見ヶ崎川の河畔、学問の神様「菅原道真公」を祀る天満宮の森の近く「うめばちの里」に昭和28年に開校しました。今年で開校70周年を迎える学校です。今年度は、全校児童369名、18学級でスタートします。

本地区は、扇状地である山形市の東部に位置し、遠くは北西に月山、南東に蔵王連峰を望み、間近には盃山や千歳山があり、近くを馬見ヶ崎川が流れています。馬見ヶ崎川は山形五堰の起点であり、本学区において今もなお五堰の豊かな流れを目にすることができます。また、戦国武将最上義光公由来の専称寺をはじめとする歴史的な町並みと、県庁や県警察本部、市消防本部などの行政施設や山形大学などの文教施設が共に存在する地区です。こうした本地区の自然・文化・人等の豊かな教育的資源を活かした教育活動を充実させ実践していきたいと考えております。

今年度の学校教育目標は、「主体的に学び 心身共にたくましい子どもの育成」です。この「たくましい」には、“強さ”だけでなく“しなやかさ”が込められています。たとえば、新しい環境にも適応できる柔軟さなどです。令和時代の「たくましい」には、力強い・粘り強い・丈夫である、に加えて、しなやか・のびやか・たおやか、が必要であると私は考えております。ですから、「心身共にたくましい子ども」の姿は、“時代の変化に適応しながら、明るく前向きに生活する子ども”や、“周りのひと・ものとつながり、感謝の心をもちながら自分の目標に向かって努力する子ども”、“乗り越える力をもつ子ども”などのようになります。

4月の職員会議で、ややスローガンのですが、「コロナ禍を抜けて走り出す」という内容を伝えました。令和2年3月から、感染拡大防止のために様々な教育活動が制限されてきました。ここにきて、ようやくマスク着用や消毒等が緩和されています。5月には5類に引き下げられるようです。これまで児童の健康と安全を最優先に考えて自粛してきた教育活動が再開します。でも、無条件にそのまま元に戻すことはしません。「何を、どのように、どこまで戻すのか。あるいは、新しいものに置き換えるのか。勇気をもって止めるのか。」、学校が主体性をもって決断しなくてはなりません。「八小の子どもをどのように活躍させ伸ばすか」、全職員の英知を集めて真剣に取り組みます。また、保護者や地域の願いに添えていくことも大切なことです。学校の力強い応援団です。一方、教職員の働き方にも配慮する必要があります。それらのことを含めての活動再開です。

考え込んでいては、時間だけが過ぎてしまいます。まずは、走り出すことが肝要。向かう方向さえ間違わなければ、走りながらでもやれるはず。学校運営協議会の皆さまに相談し、PTA役員のお力をお借りしながら、学校教育目標に近づきたいと願います。

本校は、前述の通り開校70周年となります。大きな式典は、今年はありませんが、70周年の記念の年に、普段は出来ないことを体験させたいと思います。その願いが叶い、開校記念式と学習発表会を外部施設で同日開催することになりました。子ども達全員を、スポットライトを浴びて舞台に立たせることができます。今からワクワクします。保護者や地域の皆様のお声を傾聴しながら、私たちは駆け抜けていく所存です。

本ホームページでは、本校の概要や学校での活動等を紹介させていただいております。学校をより身近に感じ、より深く理解していただくための一助となれば幸いです。宜しく願いいたします。